

# 幼児期における国際教育

—— 欧州 かけ歩る 記 ——



鈴木 忠雄

## 一、はじめに

世界教育者会議アジア地区協議会がマラヤ連邦クワラランプールで四月二十四日から一週間開かれました。日本教育連盟から公私立の校長六名が派遣されましたが、私もその一員として参加しました。

この会議では、「児童の健康と学校」という議題で討議しました。参加したアジア十四箇国の健康教育の中で、日本がすべての方面で優れていたように思われました。この会議を終了した後、われわれ六名は五月一日シンガポールを振出しに欧州を一巡しました。

## 二、欧州見たまま

欧州各国の学校参観は、大公使館を経てお願いしてもなかなか許可されません。私たちはやっこのことで高等学校を二、三見学したにすぎません。従って路上でまたは遊び場を見た子どもについて、見たままを書いてみました。

バンコック(タイ国)空港に着いた時、四十度の暑さに驚きました。仏教徒の多い国だけあって到る所に寺があり、立派な仏像が安置されていました。当地は夏休み中でしたので、学校は鎖されていました。市街の広場の樹蔭に子どもが遊んでいました。子どもたちは裸体に裸足という姿です。市街を一步出ると粗末な小屋がけの家が続いて市街の立派な家との差が甚だしいのに驚きました。濁った川の流れて洗濯している母親のそばで泳いでいる子どももいました。

ボンベイ(インド)も酷暑の時期でした。私どもが空港からホテルに向う途中(午後十一時)裸体のまま歩道に寝ている人の多いのに驚きました。ここでも子どもは全裸で焼けつくような道路を裸足で歩いています。「銭を呉れ」といって私どもにせびりますので仲間のひとりが銭を与えましたら、次から次と集って来るので私どもの方が逃げ出す始末でした。これらの子どもは教育も受けられない

気の毒な民だそうです。

カイロ（アラブ連合共和国）も暑さがきびしく、ピラミッド・スフィンクスを見物した時は、気持の悪くなるような酷暑でした。市街は道路も整って立派でしたが、子どもらにはさっぱり出会いませんでした。

五月五日 アテネ

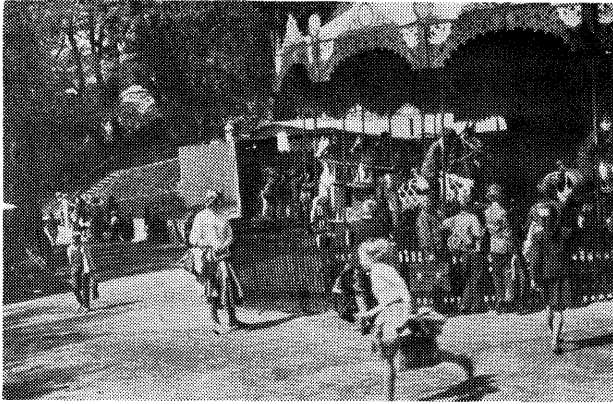
（ギリシャ）に着きました。昨日までの暑さに較べて涼しいので助かりました。

旧王宮跡（現議事

堂）、アクロポリス、スタディウムなど古代建築の偉大さに感じました。

ローマ（イタリア）

はオリンピックの準備で大童でした。どこへいっても改修中で落付かぬ感じがです。学校はどこでも



ストックホルム

スカンセンに遠足できた子どもたち

試験中と称して参観拒絶。やむなく観光して歩きました。バチカン

教会、バチカン博物館はその規模の大きいのにびっくりしました。ナコロスタジアム・カラカラ浴場を見て往時の繁華を偲びました。ナポリに行くため駅で切符を求めましたが、改札口がありません。車中で検札があるだけです。ベスピアス火山に登って噴火口を見物しました。阿蘇山より遙に小さいものでした。ポンペイの廃墟はすばらしかったです。紀元前六世紀にかくも優秀な街が出来たのかと感心しました。大使館で鈴木九万大使にお目にかかりイタリアの教育事情をうかがいました。

ウイーン（オーストリア）では大使館の斡旋で、市立高等学校を参

観することが出来ました。楽しいに自由に学習している生徒の表情の明るいと校長の権限の大きいのに一驚しました。国立オペラ劇場で本格的なオペラに陶醉しました。演題は「ノマンレスコ」、見物人は中年以上の人が多かったようです。

チューリッヒとジュネーブは観光国の都市だけあって共に整った

清潔な街でした。チューリッヒ駅前通りの右手広場にベスタロッツの像がありました。

レマン湖のあるジュネーブの街は、いたるところにきれいな花が咲いておりその色の鮮かなことは何ともいえません。湖畔から見たモンブランの山々の美しさも格別でした。幼稚園児が帰宅するのに出あいましたが、誰ひとりとしてこの花を折ったり摘んだりしませ

ん。

五月十五日 フランクフルト(ドイツ)に到着しました。ここにはゲーテの家が残されていました。ハイデルベルクへは汽車で行きましたが、日本と同様改札口がありました。大学と古城で有名な街です。ライン河本流も見物しましたが、その河幅は大きくて日本の河川とは較べものになりません。

十七日 西ベルリンに入りました。どこに戦禍があったのかわからぬ程すっかり復興していました。今まで通過してきた街の清潔さに較べて、西ベルリンの不潔さが特に目立ちました。学校帰りと思われる生徒が、アイスクリームを喰べながら歩いたり、バナナをかじりながら歩いていくのを見ました。非行青少年が多いと大使館員は語っていました。

東ベルリンはソ連の管理下にありますが、街が静かで清潔で淋しくて西ベルリンとは正反対です。パリーの四頭会談が決裂したので、フルシチョフが東ベルリンで演説をするのだそう、街をお祭のように飾っていました。

ハンブルグはドイツ最大の貿易港だけあって、街の到るところで海員に会いました。街の中央にあるアルスター湖の夜景が美しく印象的でした。

五月二十日 コペンハーゲン(デンマーク)に入りました。大使館で穂崎一等書記官からお話を伺いました。生活を楽しみ貯蓄心がさ

かんな国。栄養を十分に摂るので幼児から体格が優れている。(北歐三国は皆同様でした。)冬が長いので夏期の日光浴がよく行なわれている。子どもらは皆ボーイスカウトに加入して上品である。

チボリーという遊園地に行ってみました。そこで遊ぶ子どもが非常に多いのに、園内はまことに清潔で紙屑一つ落ちていないのに驚きました。花壇に咲いた花をむしるものはひとりもありません。

デンマークが島嶼の国であるならば、スエーデンは沼の国といえる程たくさん沼が飛行機上から見えました。さすがに寒いのでレインコートを着て歩きました。ストックホルムにも「スカンセン」という遊園地があります。ちょうど小学生が遠足で先生に引卒されてきていましたが昼食の時、塵をすっかり集めて奇麗にして帰ってきました。

オスロ(ノルウェー)では大使館の藤崎事務官が出迎えて下さいました。大使夫人の御招待をうけて、久し振りに日本食をいただき嬉しかったです。この国は社会保障の完備していること、夏期の短いこと、従業時間の少ないことなど説明していただきました。街のヒークランド公園にある「人間の百態」という彫刻は実に見事でした。

五月二十五日 アムステルダム(オランダ)につきました。水の都で海面より土地が低いので、市街の大部分に川が流れていました。市内観光はバスでなく汽船ののって見物することになっています。

汽船と自転車の多い国です。中央停車場の前の道路に何千台という自転車がおいてありましたが、夕方になると一台も残さずなくなります。決して他人のものを持っていかぬという徹底ぶりです。

五月二十七日 パリー(フランス)に着きました。大使館で石垣鉄郎大使からフランスの事情を教えてくださいました。

エッフェル塔を見ましたが規模は東京タワーより大きいようです。凱旋門、シャンゼリゼ通り、ルーブル博物館、ノートルダム寺院などみな素晴らしいものでした。日曜日のセーヌ河畔で男女が幾組となく並んで皆抱擁しあっているのを見てびっくりしました。

パリー人の十代から二十才前後の女子は華かな服装をして歩いていましたが、一般市民は地味な服装でした。

ロンドン(英国)はパリーに較べてまた地味な所です。宮殿も他の建物も古典的な所が多かったです。バスに乗る人々は秩序整然と一到に並んで決して先を争いませぬ。子どもも乗車後静かに腰かけて車内は極めて静かでした。街の広場では子どもたちが楽しそうに遊んでいます。おとなはベンチに腰かけて静かに見えています。

バックingham宮殿の衛兵の美しさと国会議事堂の立派さが印象的でした。

六月三日 同行の校長各位は更に米國に渡りましたが、私ひとり別れて日本に向け帰国いたしました。

### 三、幼児期の国際教育

欧州の子どもたちは実に明朗快活でした。私たちが未熟なことはで話しかけても、気持よくニコニコ笑いながら答えてくれます。道をたずねても親切に教えてくれます。乗物にのつても秩序を守ります。こうした子どもの躰はみな両親の責任において家庭でなされるのだそうです。

私は日本の幼児に対しては、家庭と幼稚園の両方面から次のような事を特に指導していただきたいと思いました。

- 1、幼稚園に来たとき、帰るときは必ずあいさつをする。
- 2、教師や友だちとの約束を守る。
- 3、きめられたとおり、道路を往復する。

交通規則を守る。

- 4、友だちと仲よく遊ぶ。
- 5、困っている友だちを見たら、助けてあげる。
- 6、身近な働く人々に親しみをもち。
- 7、みんなといっしょに国の祝日などをたのしむ。

枚挙すればまだまだたくさんのものがあげられると思いますが、要は明るい正しい清い幼児の育成ということに尽きると思っています。

(新宿幼稚園長)

\* \* \* \*